

2011年11月

分野：デザイン（伝統産品）

担当：上海事務所

## 上海の有力小売店情報：淮海中路周辺ストリートとトレンドイショップ

## 1 「最もトレンドイショップ」選出イベント

2011年9月、毎年上海で開催される「ショッピングウィーク」及び「旅行ウィーク」に合わせ、上海で1、2を争うショッピング街である淮海中路を中心とした周辺エリアから、「最もトレンドイショップ」を選定するというイベントが行われた。

同イベントは、上海市淮海路経済発展促進会および雑誌《VOGUE》が主催し、淮海中路とその周辺に位置する“八号橋”エリア、“思南公館”エリア、“田子坊”エリア、“新天地”エリア及び長樂路、復興路、淮海中路、建国路、巨鹿路、進賢路、茂名路、南昌路、瑞金路、思南路、陝西南路、新樂路、自忠路などから、「もっともトレンドイショップ」を推薦・投票するというものである。

## 2. 周辺ストリートとトレンドイショップ

同イベントで名前が挙げられているストリートやエリアは、もともとは住宅街の道路に自然発生的に店が集まりショッピングストリートを形成した地区が多く、古い洋館を改造したショップや、路地裏にある隠れ家的なショップも多い。

例えば“新天地”は、香港のデベロッパーが開発したショッピングエリアで、里弄の配置はほぼそのままに路地・内装を大幅に改造し、入居する店舗も上海で著名な飲食チェーンや高級服飾・宝飾店などであり、洗練されかつ高級感のある地域となっている。“田子坊”は20世紀末にメディア企業や芸術家のアトリエなどが入居し始め、徐々に芸術家の作品発表や販売が行われるようになり、やがて飲食店が集まり出した。さらに雑貨やインテリアなどのショップも入り、上海独自の古い建物は維持しつつ、様々なショップが集まるおもちゃ箱をひっくりかえしたような街並みになっている。

客足は中心地に比べれば少ないが、街並みと先駆的に展開する店舗によって作り上げられたこうした「ストリート」は独特のスタイルや雰囲気があり、日本の製品によっては販売拠点としてすんなりとなじむところもあるだろう<sup>1</sup>。

なかでも日本のデザイン商品の販売に適すると思われる「安福路」、「永嘉路」を選び、ストリートの特色や所在する小売店を以下に紹介する。さらに、上海市の中でもその街並みの美しさで知られ、近年徐々におしゃれなスポットとして注目されている「武康路」に店舗を構える会社の

<sup>1</sup> 先に挙げた“田子坊”エリアには、2011年9月に日本全国商工連合会による日本の伝統工芸品などを販売する「+8（ジアーパー）」というショップがオープンしているほか、90年代からすでに情報が早い若者には有名であったストリート紹興路にも日本の製品（骨董含む）を取り扱う路面店が2011年12月にオープンするなど、徐々に日本製品が路面でもみられるようになりつつある。+8ウェブサイト：<http://www.jia-8.com.cn/>

責任者に、店舗立地についてインタビューを行ったので内容を紹介する。

販売拠点として検討する場合、建物の賃貸・購入（特に「老房子」といわれる古い建物については、通常の手続きのほか様々な制約や別途手続きを要する）や、客流、客層など多々勘案しなければならないポイントはあるが、上海での出店場所検討の参考となるだろう。

### 1) 安福路

東西に伸びる長さ約 800m のストリートで、東から西への一方通行 1 車線。交通量は、信号機なしの場所でも楽に横断出来る程度。

欧米系外国人が多く住むマンションが周辺に多数あり、ワインバー・ワインショップ、コーヒーショップ、レストランのほか、外国人向け食品スーパーもこの短いストリートに 2 軒ある。いろいろな分野のショップがあるストリートではあるが、他と比較すると、インテリアや日用品の店が目立つ。

※「店舗（間口）の大きさ」は間口を基準として、「小」間口 2m 程度、「中」2-8m、「大」8m 長で、間口と比較して奥行きがある場合はその旨記述する。（以下同じ）

#### ① 店舗名称：home store

番地：安福路 160 号

ジャンル：内装デザイン・家具デザイン・インテリアコーディネートを行うデザイン事務所

店舗（間口）の大きさ：中

商品の価格帯：-

ウェブサイト：不明



#### ② 店舗名称：KAVAKAVA

番地：安福路 167 号

ジャンル：木製中国風家具オーダーメイド及び小物販売

店舗（間口）の大きさ：中（奥行きあり）

商品の価格帯 スツール 600 元～ ブックシェルフ 3000 元～

ウェブサイト：[www.kavakavahome.com](http://www.kavakavahome.com)

備考：中国古典家具を現代的に解釈した家具のオーダーメイド店。ブックシェルフ 3000 元～4000 元。そのほか鳥かごを模した照明など、飾り物もある。自社でデザイナーを抱えている。

#### ③ 店舗名称：CASA CASA

番地：安福路 201 号

ジャンル：欧米デザイナーズ輸入家具

店舗（間口）の大きさ：大

商品の価格帯：高め

ウェブサイト：不明



備考：イタリア家具ブランド **kartell** を中心に、デザイナー家具、内装品類及び北京のデザイナーが黒胡桃材を使って制作した木製家具の展示販売を行う。オーナーは香港人で、普段は上海にいないが買い付けなどはオーナーが行っているとのこと。

④ 店舗名称：SU GALLERY

番地：安福路 288 号

ジャンル：輸入装飾品、家具

店舗（間口）の大きさ：中

商品の価格帯：高め

ウェブサイト：[www.gallery-su.com/](http://www.gallery-su.com/)

備考：販売のほか、室内装飾やギフトサービスも行う。オーナーは台湾と日本人夫婦であるが、展示さ

れているものは主にアメリカ・フランスのもの。販売している製品の 99% は輸入品である。花瓶、写真立て、キャンドルスタンドなど、飾り物に属するホームインテリア製品のほか、書斎机、食卓テーブル、椅子など、「金・銀・黒」を基調としたものが店内に飾られている。飾り物はいずれも大きめのサイズで、広い部屋でなければマッチしないようなものが多かった。客は場所柄か外国人が多く、そのほかデザイナーが依頼主を連れてきてその場で選んでもらうという買い方もなされている。上海パークハイアットにショップあり。



⑤ 店舗名称：COCON

番地：安福路 308 号

ジャンル：輸入雑貨、家具

店舗（間口）の大きさ：中（奥行きあり）

商品の価格帯：やや高め

ウェブサイト：[www.cocondecor.com/](http://www.cocondecor.com/)

備考：まだオープンして 1 年経っていないインテリア、日用品のショップで、香港の海華設計事務所によるものである。ガレージハウス風の内装で、デザイン性が高い椅子や小物を置いている。販売されている陶器の食器類は日本から輸入されたもので、黒織部ソーサー付きコーヒーカップ 450 元、「名古屋」のシールが貼られていた大皿 28 元～128 元、どんぶり 78 元という価格帯であった。このほか、京都和傘の老舗である「日吉屋」のランプシェードが 10 種類近く、店内に展示されていた。

⑥ 店舗名称：JANE WANG

番地：安福路 300 号 3 階

ジャンル：輸入ファブリック（カーテン布地など）

店舗（間口）の大きさ：（店舗自体は 3 階にあり）

商品の価格帯：－

ウェブサイト：不明

備考：カーテン、ソファ、クッションなどの輸入



アプリック専門店。店内はベッドやソファの展示品があったほかは、布地見本カタログが店舗の大半を占めていた。

⑦ 店舗名称：forum 時鐘展示場

番地：安福路 318 号

ジャンル：置時計

店舗（間口）の大きさ：小

商品の価格帯：－

ウェブサイト：なし

備考：forum というブランドは、上海福臨時計儀器有限公司の商標で、同社は上海市の時計業界団体である「上海市鐘表行業協會」の理事企業でもある。ここではクラシックタイプの置き時計、壁掛け時計が展示されていた。



## 2) 永嘉路

東は瑞金路から西の衡山路までの東西約 2km のストリートで、両側通行片道 1 車線。瑞金路から太原路までは雑多な商店街が続くが、太原路以西は閑静な住宅街となり、あちこちに「文物保護建築物」の標識を掲げた古い建物を見ることができる。道の最西端は衡山路のバーストリートと一帯になったにぎやかなエリアとなる。

このストリートには洋館を改造した中華料理レストラン「点石齋小宴」、フランス人が経営しパッケージにモダンなテイストを取り入れた茶葉店兼カフェ「宋芳茶館」、台湾人がオーナーで日本にあるようなおしゃれなパティスリー「L's life」、やはり古い建物を改造したブティックホテル「客堂間」、洋館の寿司店「shari」等、個性豊かな店が並ぶ。

① 店舗名称：述然雑貨

番地：永嘉路 762 号

ジャンル：生活雑貨・小物

店舗（間口）の大きさ：小

商品の価格帯：小さいものであれば 5 元から

ウェブサイト：なし

備考：「述然雑貨」は非常に小さな、まさに雑貨屋という店舗で、コンセプトは「カントリー風」にまとめられている。たとえば、ブリキのバケツを模したスタンド、ホーローのマグカップ&容器、ステンシルの絵柄がついたキャンバスバッグ、花柄のハンカチ、はんこセット等々が、床壁を問わず隙間なく陳列されている。



② 店舗名称：意庭家居 ISTING

番地：永嘉路 398 号

ジャンル：ホームインテリア

店舗（間口）の大きさ：中

商品の価格帯：中の上～上

ウェブサイト：[www.isting.com.cn](http://www.isting.com.cn)

備考：閑静な住宅街とにぎやかな商店街の境にある輸入ライフスタイルプロダクトショップ。もともとは卸売だけであったが、各所から要望があり、1年ほどまえに店舗を持つことになった。現在は陶器ブランドのASA（ドイツ）、ガラス・クリスタル製品ブランドのLSA(英国)の代理販売を行っている。まためずらしく中東のデザイナーの作品も置いている。店舗に1セット陳列されていたノリタケのカップ&ソーサーは、客からの要望も多いが、オーナメントの一つとして飾っているので売っていないとのこと。



### ③ 店舗名称：永嘉庭 SURPASS COURT

番地：永嘉路 570 号永嘉庭（注：ここはモール・複合施設である）



1970年代に「上海通信放送製品品質検査ステーション」として使われていた建物が2000年に「中国航天科技集団第八研究所八〇八所」に変更、そして2009年に「永嘉庭」surpass court という商業エリアに生まれ変わった。1階に面した店舗は、レストランやネイルサロン、画廊のほか、キッチン用具専門店「怡品」、景德鎮陶器店「Don han」、カントリー風雑貨「atelier et moi」、内装デザイン・家具デザイン及び販売の「asig design」といった生活用品関連の店舗が入居している。ビルの上階部分はオフィスである。

### 3) 武康路

フランス租界があった当時の1907年に修築された道路で、もとは「ファガーソンレーン」と名付けられていた。約1,200mにわたるストリートの両脇は、20近くの著名人寓居や歴史的建築がならんでいる。現在も「幹部住宅」があり、政府要人も住むところである。ストリート沿いには服飾店とバー・カフェがまばらに並ぶ程度ではあるが、オーナーの趣味嗜好が窺える、独特の店が多い。武康路376号にある「武康庭（Ferguson Lane）」は飲食・ファッション・画廊・花屋などからなる複合施設で、オールドハウスをリノベーションしたもの。欧米系外国人及び富



武康庭（Ferguson Lane）

裕層の出入りが目立つ。

このエリアは静かなエリアだが、徐々にハイクラス層を対象とする店がオープンしてきている。

① 店舗名称：ipluso

番地：武康路 288 号

ジャンル：文具、ギフト、ビジネスアクセサリ、アイウェアの企画・デザイン・販売

店舗（間口）の大きさ：中

商品の価格帯：パスケース（小）150 元～  
カバン 500～

ウェブサイト：淘宝モール

[http://store.taobao.com/?spm=2005.0.6.100&shop\\_id=34214433&wwlight=cntaobaoipluso](http://store.taobao.com/?spm=2005.0.6.100&shop_id=34214433&wwlight=cntaobaoipluso)



<ipluso インタビュー>

概要

同社はオーストラリア華僑によって設立された文具、ギフト、ビジネスアクセサリ、アイウェアの企画・デザイン・販売を行う企業。話を聞いたアートディレクターの李広音氏もオーストラリア国籍である。この武康路 288 号に店舗兼オフィスを構えてすでに 5 年経つが、彼女は当時の立ち上げメンバーの一人であった。

現在、同社は自社のデザイナーのほか外注デザイナーやカメラマンなど、多くの関係者を抱える。店内に展示されていた商品は、財布、パスケース、PC ケース、ipad ケース、名刺入れ、ビジネスノート、携帯電話ホルダー、カバンなどで、色のラインナップは緑・オレンジ・黒・シルバーがメインとなっている。商品のコンセプトは「仕事をちょっと楽しく、ちょっときれいに、そしてちょっと簡素に」できる物で、かつこれに「トレンド」という要素を加える。2010 年には雑誌『LOHAS 楽活』の選定する「LOHAS SHOP」にも選ばれている。

武康路という場所について

李氏によれば、このエリアに出店した最大の理由は、「環境が非常によいから」とのこと。人や車の往来は少ないが、仕事をするうえでは非常に快適で、この 5 年で移転は考えたことはないという。家賃については、上海はどのエリアも高いのだからと割り切っているが、市内繁華街よりは安い。

2010 年までは隣に花屋があったが、それが退居したのでそこも借りて拡張し、新たに眼鏡フレームも展示するようになった。このショップのほか、淮海西路にあるアート・クリエイティブスポット「紅坊」や、同じく工場をリノベーションしたクリエイティブスポット「8 号橋」にも店舗を置いている。

このストリートには豪邸が建ち並び、一部高級アパートメントもある。「安福路」とつなが

っているが、安福路のように賑やかにはならないだろう、とのこと。安福路に面しているショップは比較的安めの「公房（注：日本でいうところのアパートのようなもの）」が多い。

烏魯木齊路～安福路に外国人が住むマンションができ、外国人向けのスーパー・ベーカリーができたことが起爆剤となり、外国人向けのショップやおしゃれで生活レベルも比較的高い層向けのショップが徐々に集まっているが、武康路では建物の改築はむずかしく、「街並み」を大事にするため、安福路のように急速に店舗が増えるというようなことはないと思っている。

しかし、武康路を通る人たちもアップークラスであるため、有望顧客の割合を考えれば、小売の効率はよいかもしいない。

### 3. ストリートへの出店

繁華街の目抜き通りではないストリートに構えられている店舗。それらはただ「物を売る店」という経済的機能のほか、そのストリートを色づけ、特色のあるものとする「文化創造機能」に貢献している。特に今回紹介したストリートは、南京西路や淮海中路のような人通りが多いわけでもなく、ショッピングモールのように高い密度で店舗が集積しているわけでもない。「せっかくの海外進出なのだから目立つ場所でなければ意味がないのでは・・・」「ブランドイメージと合うストリートなんかあるのだろうか・・・」と、マイナスイメージが先行するかもしれない。しかし現在の上海は、かつての租界時代の遺産をうまく利用した店舗作りや商品揃えのストリートがみられる。

上海のストリートは大半が飲食とファッションに占められており、おしゃれな日用品を販売する店舗を見つけることはむずかしい。だが、家庭で使うものもより便利に、より楽しく、より美しくと考える人たちが徐々に増えてきている。

加えて上海という街は、四角四面のビルが建ち並ぶだけの街ではなく、またいわゆる「中国風」様式が支配する街でもない。新しい物・古い物、先進的な物、伝統的なものを受け入れる素地がある。それを大いに利用し、閑静な街角の小さな店から始めるというのも中国市場開拓の一手ではないだろうか。

以 上